

納得のいく進路選択のために

1 年生はついこの間入学式を終えたばかりなのに文理どちらに進むか考える時期、2 年生は具体的な志望大学を決めていく時期になりました。高校卒業後に、どのような進路を選ぶかは、君たちのこれからの人生を左右する大きな問題です。少しでも進みたい方向が見えてきたら、**様々なタイプの情報源**を元に調べ希望に合っているのかを検証し、とことん考えてみましょう。

1、本・雑誌を活用しましょう⇒上野高校図書室では、大学入試で出題された本のコーナーがあります。ぜひ、夏休みを活用し、興味のある分野を探してみましょう。また、図書室では、新書コーナーを増設する予定です。 **大学入試で出題された書籍**

京大(文系)	森田真生『数学する身体』2023
早稲田(文)	蘆田裕史他編『ファッションスタディーズ』2023
(教育)	長谷川宏『幸福とは何か』2019
(社会科学)	鷲田清一『しんがりの思想』2016
慶應(総合政策)	ショーン・ソワア『読書について』2023
	ピエール・バイヤール『読んでいない本について堂々と語る方法』2023
慶應(文)	吉見俊哉『「文系学部廃止」の衝撃』2017
上智(文)	加藤陽子『それでも日本人は戦争を選んだ』2021
明治(経営)	山崎正和『リズムの哲学ノート』2019
青学(総合文化)	イマヒル・カト『啓蒙とは何か』2021
	太田肇『「承認欲求」の呪縛』2020
法政(経済)	恩田陸『蜜蜂と遠雷』2020
日大(経済)	永田和宏『知の体力』2019
(全学統一)	大澤真幸『社会学史』2021
大学共通テスト	呉谷充利『ル・コルビュジエと近代絵画』2023

2、Web サイトは情報の宝庫です。大学のサイトでは学べる学問や内容や就職状況などの情報を入手しましょう。**情報を見極める力も必要**になります。「これは正しい情報か」「これは個人の感想か」という意識を持ち、様々な情報を比較することによって、新しい発見もあるはずです。

「マナビジョン 進路サポート」のQRコードです。アクセスKeyは、**shinsapo**⇒

3、書かれたものを読む、見るだけではなく実際に興味のある学校や団体で学んでいる人から直接話を聞くと、生の情報が得られます。



2 学年 リアルな大学模擬授業を体験！



日本大学 「芸術」
自分の好きなものについて共通点を探すことで、言語化していない新たな自分の一部を知ることができた。個性とは何かについて考えるきっかけになった。



上智大学 「新聞・マスコミ」
広告には動物・有名人・子供が使われているのは、ABCメソッドの法則が使われていることを知りました。ポスタージャックやSNSでのPR等では人気やパフォーマンスだけではなく、正しい情報を見極めることが大切だと感じた。

埼玉県立大学「看護」

少子高齢化社会に適応した看護のかたちについて知ることができた。



1 年生 東京大学に行ってきました！



7月17日(水)、18日(木)に東京大学本郷キャンパスに1学年の生徒が見学に行きました。国内最高水準の研究が行われている大学です。

明治時代に東京帝国大学として開校してから、現在に至るまで、キャンパス内には史跡旧跡が数多く残っています。

国の重要文化財である「赤門」、本郷キャンパスの象徴である「安田講堂」やいちよう並木などを巡り、生徒達は事前に出されていたクイズの答えを探しました。本の背表紙をモチーフにした外観の図書館や、夏目漱石の小説『三四郎』の舞台となった三四郎池を訪れ、東京大学の歴史や特徴を知ることができました。

学ぶことの意義を考え、自ら学び続ける態度や進路意識を育てる機会になりました。今後のオープンキャンパスへと繋げていってほしいと思います。

上野高校初！！ 図書館見学ツアーに1・2・3年図書委員参加

7月18日午後、「**国際子ども図書館見学ツアー**」が行われました。国際子ども図書館は、上野公園内にあり、明治39年に建てられた明治期ルネサンス様式の美しい建物を利用した、**国立の図書館として初の児童書専門図書館**です。上野高校からは徒歩5分で行けるといふ地の利を生かし、今年度初めて、見学を希望する**図書委員15名**が参加して行われました。

参加生徒は、スタッフの方による施設見学(普段は見ることのできない地下書庫など)、蔵書を使った「調べもの体験プログラム」を楽しみ、充実した2時間を過ごしました。図書館では今後もこのツアーを継続していきたいと考えています。

2 年生 大学模擬授業を受けて感じたこと

7月10日に国公立・私立大学の教授が来校し、多くの出張講義を行っていただきました。事前に希望した大学の講義を2コマ受けました。実際にリアルな模擬講義を受け、様々な気づきがありました。生徒の印象に残ったことを一部ですが掲載します。

埼玉大学 「グローバル」 発展途上国への支援だけでも様々な種類があり、その地域の問題を見極め、それに合わせた援助方法が大切だと感じました。

筑波大学「人文社会」 ガザ情勢やパレスチナ問題はニュースで耳にしたことはありました。古くからの出来事が積み重なって起きたことだと知り、国際問題は複雑なのだと知り、国際関係に進む場合は、聞いたことのある単語や歴史、国同士のつながりを理解するために、世界史の授業をよりしっかり受けなければと改めて感じました。

東京学芸大学「教育」 大学が気になってこの講義を選んだのですが、興味がわいてきました。最近是一緒に学ぶ人としての教師が求められているという話を聞いて、教師も時代とともに変化していくものだと感じました。

立教大学 「経済学」 経済学というと経済経営、商経済、政治経済のイメージが強かったのですが、実は社会科学、いわゆる「文系的」な学問を内包していると聞き、より経済学に興味を持ちました。経済が成り立つには、それを学ぶ人間に倫理や道徳が備わっていなければならないと仰っていました。

玉川大学 「農学」 生態系を研究するためには、固体や細胞等深く知る必要があると感じた。マングローブや海の生態系に興味を持った。フィールドワークが多いと聞き、座学だけではない学科に進みたいと思いました。

大学訪問 筑波大学を訪れて

今回の大学訪問は筑波大学です。筑波大学は、首都圏では東大、千葉大、都立大、横浜国立大、埼玉大と同様名門の総合大学です。筑波大では学部は学群と呼ばれ、人文・文化学群・社会・国際学群・人間学群・生命環境学群・理工学群・情報学群・医学群・体育専門学群・芸術専門学群と素晴らしい充実ぶりです。76期生3名、75期生2名、74期生2名、73期生3名の合格者を出しています。なお浪人生になりますが、筑波大の医学部にも73期生で合格者が出ました。

【筑波大学のアピールポイント】

① 自然があふれ、緑豊かな広大なキャンパス！

上野高校を出発して、上野から山手線で秋葉原に行き、つくばエクスプレスに乗り、50分で到着しました。そこからバスに乗り、10分で筑波キャンパスに到着します。上野高校から所要時間は90分。アクセスは意外と楽です。筑波キャンパスは、学園東大通りと学園西大通りにはさまれて位置し、5つの地区に分かれています。とにかく広大ですが、遠くに見える筑波山やループ道路沿いの並木、どこまでも続く遊歩道・自転車道（ペデと言われるそうです）など、海外の大学のように。キャンパスの美しさでは、日本でも5本の指に入ると思います。

②筑波大は国際的、留学プログラムが充実！

筑波大学は、カリフォルニア州立大学、モントリオール大学、マンチェスター大学、北京大学など338の大学と国際交流協定を締結し、この協定に基づいて交換留学が行われているそうです。留学時の経済面をサポートする奨学金を複数設け、最高で20万円の支援が受けられます。



③研究レベルは高く、就職は抜群！

筑波大学には様々な研究施設があり、自由な雰囲気の中で、世界的なレベルの研究が行われています。就職も素晴らしく、民間企業だけでなく、公務員や教員になるためのサポートが完璧です。研究職や高度な専門職につく卒業生も少なくありません。また奨学金制度も充実しており、授業料減免制度も用意されています。

【筑波大学に合格するには】

筑波大一般入試の特徴は、総合選抜と一般選抜があることです。

①総合選抜：総合選抜は入学時に学部学科を決

めないで、入学後の1年間は英語や外国語、情報・体育などの基礎科目だけでなく、様々な分野の入門科目を学び、1年生の終わりに本人の志望と成績に基づいて2年生以降に所属する学部学科を決めます。

「まだ何を勉強するか決めていない」「研究してみたいことはあるけど、学類は入学してから決めたい」という人には最適です。受験科目は、共通テストが6教科8科目（文系は6教科9科目）の普通のパターンが基本になります。

2次試験は3教科で、私立との併願も可能です。文系は、英語・国語が必須で、地歴公民・数学ⅠⅡABから1科目選択、理系（配点によってⅠⅡⅢに分かれる）は英語・数学ⅠⅡⅢABが必須で、理科2科目選択です。

②一般選抜：一般選抜は学群ごとに科目の配点が定められており、基本は共通テストが6教科8科目（文系は6教科9科目）で、2次試験がそれぞれの学群で定められているので、ホームページや要項等で確認しましょう。他の国公立大に比べて、科目の負担が少ない学群があったりするので、必ず確認して下さい。また77期生の皆さんが受験する新課程入試の受験科目は近日中に発表予定です。

他の国立大に比べて、私立大との併願がしやすいのも、筑波大の特徴です。

③ 学校推薦・総合型選抜：学校推薦型入試や特色のある入試も行っているので、調べてみるとチャンスが増えると思います。推薦では、成績優秀（3年間で4.3以上）かつ自分が進学したい学部学科の分野で優れた能力や研究を行い、国際的な課題をテーマに探究・研究活動を行った生徒が条件になります。

筑波大学総合学域群合格

76期生 S. T君

Q 志望校はどのように決定しましたか？

A 国公立大の理工学部に行きたいと思っていましたが、筑波大に実際に行って見て、広々としたキャンパスに感動し、運命の大学を感じました。ここなら自由な雰囲気の中で、自分が研究したいことを学べると思いました。1、2年の皆さんは、是非夏休みなど時間のある今のうちにオープンキャンパスに行ってみてください。

Q 進学した総合学域群とはどのような学部ですか？

A 1年間総合的に自由に学んだ後に自分の専攻を決めていきます。自分の場合は理系で入学しましたが、体育群を除くどの学類・専門学群にも進学できるので、じっくり専攻を選ぶことができます。高校時代にはっきりとやりたい学問が決まっていなくても、大学入学後に選べるのが特徴です。

Q 筑波大に合格するためにどんな勉強を1、2年の時にしましたか？

A とにかく理解することを目標として勉強しました。基本が大事だと思ったので、授業や定期テスト・小テストを大事にしました。それと1、2年生のうちから模試に向けての目標設定・準備をして、模試受験後は復習する習慣化だけはしておいたほうがよいです。

Q 後輩の12年生にメッセージをお願いします。

A 受験を意識して勉強を始めたのは、2年の3学期でしたが、受験勉強を通じて、人間的に成長できたので、貴重な素晴らしい経験となりました。英数国は積み重ねの教科なので、1年からしっかりと勉強しておきましょう。私は理系でしたが、共通テストは問題文も長く読解力重視なので、国語も大事です。1、2年のうちに志望校と勉強したい分野が決まっていれば、とても有利です。「探究」での個人研究をする中で、文理選択や志望分野決定に役立てればいいですね。

「1年定期考査での大失敗」

～東京大学文科三類卒業 66期生 K. H君～

今でこそ東大を卒業し、後輩の皆さんへ体験談を書いている僕ですが、実は1年の1学期の定期考査はひどい成績を取ってしまい、進級も危ないと担任の先生に真剣に心配されたほどでした。ちなみに高1の1学期の10段階評価は、コミュニケーション英語で2、情報と英語表現で3というひどい成績でした。

ちょうどその頃、知り合いの人が東大を受けて落ちたことがきっかけで、「あの人に出来なかったからといって自分に出来ないというわけではない。」と考え東大に興味を持ち始めました。

その時から自分が変わりました。英語や古典など予習が必要な教科はしっかり行い、毎回の授業を集中して聞き、できるだけその日のうちに復習しました。特に数学など復習が大事な教科はしっかりやりました。社会や理科などは板書されない先生の余談などもすべてノートにメモし、その日の授業を頭の中で再現していました。このやり方をずっと継続した結果成績は急上昇していったのです。受験は3年間の積み重ねです、小テストや定期考査、宿題なども学力がつき、どんな大学（進路）でも行けるように役に立つものと意識すれば、まじめに取り組めます（実際その通りです！）。

上高生は頭のいい人がかなり多く、一所懸命に勉強すれば、どんな大学でも合格する可能性があると思います。特に国公立大は学費が安く、設備も充実しているので、是非目標にしてください。今回定期テストがよかった人も悪かった人も、これからが大事です！